

全業務共通

- 各種ツールの導入によるアナログ業務のIT化・自動化による作業負担削減
- 既に導入済みのTeamsをはじめとするクラウドサービスなどの活用による、シームレスなデータ共有・保存方法の普及
- また、それによる残業時間の削減

建築分野

- 当社BIMの柱である、

目立つ
BIM

稼ぐ
BIM

役に立つ
BIM

のうち、「役に立つBIM」の強化と、
それによる施工現場でのBIMモデル使用場面の拡大

※役に立つBIM…施工にとって役に立つ、
「高付加価値の設計」、「高品質で合理的で安全な施工」を実現するBIMのこと。

土木分野

- ICT/CIMやその他適切なアプリツールを用いた業務の効率化や、より効率的な施工計画の策定などを試み、無理・無駄のない施工プロセスの確立を目指す。

情報システム部

社内ITインフラの保守・運用および業務改善。
従業員のIT関連サポート、セキュリティ対策、IT戦略の立案などを担っています。

BIM戦略部

弊社のBIMの取り組みの根幹を担うBIM戦略部は、
企画段階～実施設計におけるBIMを使った
建物全般の情報管理を行うための国際規格
「ISO-19650（※1）」を取得しています。

[詳しくはこちら▶](#)

ICT推進室（土木部）

ICT施工における最終ステージ3を達成するための
業務効率化を牽引するICT推進室。
UAV・TLSを活用し3次元測量の実施、
3次元設計データの作成を内製化しています。

[詳しくはこちら▶](#)

その他にも各部での人材育成の取り組みや、委員会活動など、「当たり前」の建設DXを進めるための体制があります。



MS365・OneDriveを中心としたクラウドサービスの導入および定着のための勉強会実施



オンプレ環境にある社内システムの再構築（クラウド化やデータサーバー移行を検討）

BIMやICT/CIM施工に必要な各種アプリケーション等の導入と適切なライセンス付与



以下の指標などによってDXの達成状況を確認します。

MS365などの社内ツールの利活用率

(アクティブなチャンネル/総チャンネル数)

残業時間減少率

(前年度総残業時間/本年度総残業時間)

BIM、CIM/ICT等のDX技術を導入した施工を実施している工事現場率

(DX技術導入工事現場数/全工事現場数)